

# 奈良市消防団だより

くまでしこ新聞



**発行**  
**奈良市消防団**  
 〒630-8145  
 奈良市八条五丁目  
 404-1  
 奈良市消防局  
 総務課内  
**☎ 0742-35-1199**  
 編集人  
 奈良市消防団  
 広報指導分団  
 中村 亜矢子

## 奈良市消防団・西部方面隊の特徴や情報をお届け！普段の活動はこれから

奈良市北西部の平城地区と高の原・学園前地区を管轄している平城分団は30名の団員が活動しています。

団結感があまりなかった団員同士が、平成28年に開催された「第26回奈良県消防操法大会（小型ポンプ操法の部）」に奈良市代表として出場する機会を得て、選手・控え選手・後方支援者として、互いに支え合い真夏の厳しい練習を乗り越え、大会に出場できたことにより団結力が養われ、奈良市で一番団結力のある分団に成長することができたと思っています。その団結力は大会以降に入団した団員にも、確実に引き継がれています。

## 奈良市消防団の活動

り越え、大会に出場できたことにより団結力が養われ、奈良市で一番団結力のある分団に成長することができたと思っています。その団結力は大会以降に入団した団員にも、確実に引き継がれています。

## 団員同士の結束 ～ポンプ操法～

【平城分団副分団長 津田 泰正】

の消防団が果たすべき役割は益々重要であると実感しています。日頃の防災啓発活動はもとより有事の際には、消防団が中心的役割を担い、自治会・女性防災クラブ等と協力し地域防災力の団結によって被害軽減を図り、地域住民の安心・安全の確保に務めています。

く今昔、そしてこれから

入団して7年目、「仁那（にな）」と言う会社で主に防災用品や日用雑貨等の販売を行い保育園やこども園などに納めています。夏になると、大阪・奈良・京都を中心に「河内音頭」「江州音頭」を歌い、伴奏活動をしています。

幼少期から近隣の盆踊りに先輩団員でも踊り好きの父親に手を引かれ、見様見真似で踊り始めたのがきっかけで、その時何を感じたのか父親以上にのめり込んで盆踊り好きになり、歌い始めて『櫓やぐら』の上で太鼓をたたき伴奏するように今では私が幼い頃に出演されていた師匠方とセッションを組むようになりました。



## 我が分団 自慢の「人」 都跡分団 福井隆仁

活動を始めて23年目になり、江州音頭「近江若丸おうみわかると言う名前を頂き、月に数回稽古に参加し、この夏は、約20ヶ所の会場へ出向きました。

盆踊りは、ご先祖様の精霊踊り・供養踊りに始まり、大阪や奈良で太鼓キターや三味線で浪曲・浄瑠璃・落語などの要素が織り交ざり今の河内音頭・江州音頭になっています。

櫓の周りだけ照らされ、その中で歌い手と踊り手が一つの世界をつくり、一体感になるのに魅力を感じ「来年もよろしくお願いします。」と言われるように、頑張り続けていきたいと思えます。

各会場に行くこと消防団や自警団の方と交流もでき、その地域・地区での活動状態なども知ることができると、これからの分団活動に活かしていきたいと思えます。



## 伏見分団の拠点～屯所～

【伏見分団長・坂本 雅則】

平常時には二か月に一度の役員会や幹部会議への報告や自治会活動の参加の打ち合わせを行う集会所として使用することができ、分団の拠点として有効活用します。



現在団員数30名が在籍しており、消防活動だけでなく地域防災啓蒙活動として小学校へ防火訓練に出向き、水消火器による消火訓練、放水訓練、車両展示、簡易担架の作り方など行っています。

今後の抱負として新入団員の確保、歴史的に貴重な建物が点在している地域としての防災、そして地域の皆様の財産を守る為、防火、防災活動に努めてまいります。



西部方面隊の管轄地域は24号バイパス～西方面へ生駒市との境までの範囲で、数多くの世界遺産があり、急速に都市化した奈良西部地区を都跡分団、伏見分団、平城分団、富雄分団の計150名の団員で担い、地元の中心となり防火、防災活動をしています。東日本大震災などの教訓と近年みられる災害の多発、多様化が著しく進んでいることを踏まえ団員を十分確保し、防災意識を高め、充実強化しなければいけないことがはっきりしています。そして住民の皆さんにも一緒に行動してもらわなければなりません。男性、女性、若い人、中高年の人、住民だけでなく、働いている人達も皆がそれぞれの役割を果たしてもらい、いざという時に行動できるようにするために、日頃から住民の皆さんや地区に勤務されている皆さんと地域の防災、災害について一緒に学び訓練をし、お互い顔の見える関係になり、一つにまとまっていることが大事だと考えています。比較的自然災害の少ない奈良市ですが皆さんに「備える」という意識を強く持って頂きたいです。それを啓蒙、告知していくのが消防団の役目のひとつだと思っております。以上のことを西部方面隊の事業と意識付け、団員の皆さんと一緒に進んでいきたいと思っております。

最後に我々西部方面隊は「消防団は将来にわたり欠くことの出来ない代替性のない存在」として地域住民の皆さんに消防団の現状を報告し、若い世代や女性にも消防団活動に興味を持っていただき、消防団への加入促進を図ってまいります。

西部方面隊 隊長 田村 英樹

## 西部方面隊の事業と消防団の現状

都跡・平城・伏見・富雄



ポンプ操法出場の様子

### 第24回全国女性消防操法大会 in 横浜

2019年11月13日、横浜赤レンガ倉庫イベント広場で「第24回全国女性消防操法大会」が開催されました。奈良市消防団広報指導分団の出場が決定してからの二年間は消防局職員の方々、各方面隊から多くの男性団員の皆さんや選手以外の女性団員からの後方支援を受けながら訓練に励んできました。惜しくも入賞には届きませんでしたが、「奈良市消防団」全体として交流・団結が深まり、大きく成長できたと思います。

### 第25回 全国女性消防団員活性化青森大会

2019年9月19日、青森県青森市「マエダアリーナ」にて「女性消防団員新時代へわ(わたし)どな(あなた)の出会い」をテーマに活性化大会が開催され、活動事例発表や防火防災啓発劇の披露、そして多くのJリーガーを輩出している青森山田高校サッカー部監督・黒田剛氏による記念講演が行われました。展示ブースには各地の女性消防団員による広報・啓蒙活動の今を見ることで学ぶことも多くあり、当広報指導分団からは「メディカルラリー」の紹介や「奈良市消防団だより」の配布を行いながら交流や情報交換を行いました。広報指導分団としての今後の活動を進化させながら、次回の徳島大会へ臨みたいと思います。



各地より大会会場へ一堂に会す

ポンプ操法を終えて、選手の想い

広報指導分団として活動してきた私たちは、ポンプもホースも触ったことがなく仕事と家事、育児もある中、「早朝に夜間に訓練を行うことができるのか？」「自信もなく不安なまま訓練が始まりました。」

局職員の皆様はじめ、多くの男性団員が訓練場所の確保、後方支援体制の整備など全面的にご協力ください、私たちは安心して訓練に取り組むことができました。感謝と御礼を申し上げます。指導員のもと団員全員で規律訓練を行い、ホース延長も皆で行いました。番手が決まると軽可搬ポンプを使用する訓練が始まり、二日後になる筋肉痛をも新鮮に感じました。

から番手個人の動き、全員で行う操作等、試行錯誤を重ね奈良市消防一丸となった長い訓練期間、優勝はかないませんでした。が全国大会に出場した経験は今後の団活動に活かしていきます。

後方支援に参加して、都跡分団分団長 新井康弘

今回、広報指導分団のポンプ操法の応援として西部方面隊四分団が『ONE TEAM』となつて後方支援ができたことは団同士の繋がりが密になったことは広報指導分団の皆様感謝したいと思います。ありがとうございます。

### これからの活動・イベント予定

- 2020.1.26 文化財防火デー
  - 2020.2.16 奈良市消防団活性化大会  
北和ブロック合同防災訓練  
開催地:布目ダム
  - 2020.3.1 第2回 市民メディカルラリー  
開催地:JR奈良駅
- ～2019年度全国統一防火標語～  
「ひとつずついいね！で確認 火の用心」  
2020年度の標語は3月に決定予定



### 冬の代表的行事 ～若草山焼き～

毎年1月の第4土曜日に行われる「若草山焼き」。鎌倉時代の歴史書にも記述があり、起源については諸説ありますが、現在のように観光行事としての位置づけは明治時代



消防団による点火の様子

### 奈良市消防団 全団出動！

～点火から消火まで～

鎮火確認後に下山。今まで本部補助出動のみであった広報指導分団員が本年度より点火出動に参加することになります。実際に火を扱う現場に出動することは初めてとなり、先輩団員に随行し、火を扱う現場での注意事項や完全消火についてなどを学ぶ機会になればと考えます。

に確立され、現代へと引き継がれています。野上神社での神事の後春日大社のご神火を灯した松明を手に消防団員が担当場所へ移動し待機、山焼きを告げる花火があがった後、柳生分団ラッパ隊の合図で一斉に点火。勢いよく燃え上がる火の手が延焼しないよう各分団員は最後の

### 編集後記

広報指導分団が結成されて十年記念すべき年に全国消防操法大会へ出場。各方面隊男性団員の方々の協力を頂きながらの訓練は、大変さもありませんでしたが、団結を強めることができたものでした。日頃から実際の火災現場へ出動される皆さんから話を聞かせて頂くこともあり「消防団」としての活動の大切さを知る機会にもなりました。火災だけでなく、自然災害が増えている昨今、微力ながら活動の一端を担えるよう、消防団員として意識を高めていきたいと思っております。

